

ライフサポート：はた

「学習会やイベント等」のご報告
(皆さんの、ご参加をお待ちしています！)

N070 : 2023. 7. 26

四万十市中村大橋通 7 丁目 1-24
連合高知西地協 TEL:34-9191
発行責任者：事務局 伊達幸雄

色々な組織やクラブに参加している方も多いと思いますが、何か面白い話やイベントなどがあればお知らせ下さい。皆さんからの投稿をお待ちしています。

幡多地区労福協・幡多ライフサポートセンター 合同総会

○7月8日(土)午後2時から、幡多地区労福協と幡多ライフサポートセンター合同総会が四万十市社会福祉センターで行われました。コロナ後の総会で、54名の参加を得て盛会に終わりました。



○総会前に恒例の学習会があり、今回は講師に四万十市地震防災課の岡村郁弥さんを迎え、「風水害など自然災害について」の講演をしていただきました。

○総会では、来賓として県労福協 石川副会長・松浦宿毛市議(社民党)・橋本県議(土佐清水市)・石井元県議・弘田土佐清水市議・廣瀬四万十市議・こくみん共済 coop 高知推進本部 西村課長・四国労金 安岡支店長に参加頂きました。

そして、幡多地区労福協 今倉会長、幡多ライフサポートセンター 横田会長がそれぞれ挨拶をし、経過・決算・方針(案)・予算(案)を原案通り可決して終了しました。

総会終了後には、コロナ禍初の懇親会を「四万十川屋形船」の船上で行いました。夕方の川風に吹かれながら、四万十川の幸と酒などを満喫し、愉快的な和気あいの懇親会となりました。



<1月15日(日) 9:00~>

幡多ライフサポートセンター 新春囲碁大会

○幡多ライフサポートセンター 第5回新春囲碁大会が、1月15日(日)に連合高知西地協で行われ、10名の参加で楽しい1日を過ごしました。

○大会はAクラスとBクラスに分かれリーグ戦をし、上位2名ずつが決勝トーナメントに進出して競いました。

○結果は、優勝:有田瑞穂(県職OB)、準優勝:安倍淳介(県職OB)、3位:小橋雅道(教員OB)、次回がんばりま賞:平林稔斉(県職OB)・曾根司公(県職OB)となりました。



*お詫び・・・1月の囲碁大会の報告が今回の会報になったこと、関係者の皆様に心からお詫び申し上げます。

< 4月5日(水) 10:00~10:40 >

講演:「労福協運動について」

講師: 県労福協 事務局長 井上 睦 さん



○労働者福祉運動とは

『労働者が関与し、働く人たちの福祉(幸せ)の実現に取り組んでいく運動』

○労働者福祉運動のはじまり

- ・敗戦直後に、労働者にとって厳しい生活環境の中から生まれた。
- ・結成したての労働組合と購買生協が協同し、隠匿物資の摘発と適正な配給、生活必需品の民主的な管理などを統一要求として切実な運動を展開。
- ・全国的に結集した共同行動の組織を作ろうという機運が高まり、分裂していた労働団体、各産別組織、日本協同組合同盟など36団体が集結して、1949年8月に「労働者用物資対策中央連絡協議会」を結成

○幾多の変遷を経て1964年「福祉に対する労働者の主体性を明確にする」ため、現在の「労働者福祉中央協議会」(中央労福協)に改名し、労働組合と協同組合が統一した組織体として今日に至っている。

労福協の理念

すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、
連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくります

2030年に目指す社会像

貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、
平和で、安心して働きくらす持続可能な社会

2030年ビジョン

1. 多様なセーフティネットで、働くことやくらしの安心を支えます。
2. 労働組合と協同組合が連携・協同し、共助の輪を広げ、すべての人の暮らしを生涯にわたってサポートします。
3. 地域の様々なネットワークで、支え合い、助け合う地域共生社会をつくります。
4. 労働者社会福祉運動を継承・持続するために、人材を育成し、財政基盤を確立します。

○奨学金制度の改善をめざした取り組み

奨学金の返済に苦しむ人たちが多く、中央労福協のアンケートには悲痛な声が寄せられている。中央労福協は2015年から奨学金の無償化にむけての制度改善や、奨学金返済等についての相談も受けている。

奨学金返済の影響があると
感じるライフイベントや行動

結婚	37.5%
出産	31.1%
就職先の選択	46.1%
日常的な食事	42.2%

※労働者福祉中央協
議会の調査による

< 5月10日(水) 10:00~11:00 >

講演:「こうち食支援ネットについて」

講師:高知県労福協 武市 亜由美 さん、
川口 玲子 さん



こうち食支援ネットの構成組織・会員(団体及び個人)は、正会員が18会員、賛助会員が93会員(2023.5.9 現在)おり、会員の皆様に支えられている。

○私たちの目指すもの

- ・フードバンクやこども食堂、県・市町村の社協などが行っている食支援活動を有機的に結び付けていき、生活に困窮した方々への食支援の輪を広げていくことをめざす。
- ・食材提供をいただける団体、個人の拡大や地域における食支援の拠点づくりなどに取り組むことにより、食支援の拡大と充実をめざす。
- ・この活動を通じて、従来の支援枠組みでは把握できていない「支援を必要とする方」を把握し、行政や社協に支援につなげるなど、地域福祉の確立に貢献することをめざす。

○私たちの活動

- ・食支援団体の連携強化と食支援の輪の拡大
- ・食材を集める仕組みの強化
- ・食材情報提供活動を通じた食材の分配機能の強化
- ・食材を配布する仕組みの強化と地域福祉確立への貢献
- ・子ども食堂の連携強化の支援

○これまでの主な活動

たくさんの企業等や団体等に食材の寄付やフードドライブ活動に協力いただき、

- ・支援団体や子ども食堂との連携し食材の提供
- ・WEB サイトや SNS を活用した情報提供 をしている

* 2022 年度の寄付食材の量 → **18.7 トン**

心あたたまるご支援に
感謝しています。

○様々な団体・個人との連携

- ・食材応援隊(こども食堂)とのつながり・・・寄付食材の情報を共有し支援に繋げる など
- ・相互の「情報共有」や「活動支援」・・・高知県社協との相互協力することでの情報共有や活動のサポート、3市町村社協の協力を得てフードドライブ活動を行う など



<6月7日(水) 10:00~11:00> (場所:四万十市社会福祉センター)

講演:「市議会報告」

講師: 四万十市議会議員 廣瀬 正明 さん

新型コロナウイルス感染症も5類になったので、今回から役員だけでなくたくさんの方に講演を聞いてもらえるよう、社会福祉センターで開催しました。



《野良猫対策について》

○12月議会での一般質問(2023年新春号 No.19)

【質問】 引っ越し等で飼い猫が飼い主のいない猫になることもあり、捨て猫事件や猫が刃物で切られる事件も発生しており、市民の困りごとと考え市も解決に向けて努力すべきと考えている。

四万十市が参考にできるような取り組みを行っている市町村は無いのか? 四万十市で取り組めることは無いのか?

【答弁】 近隣の市の取り組みでは、県の「集中的手術枠」を活用し動物愛護団体と連携共同して避妊手術等を実施している。四万十市として動物愛護団体・ボランティア団体と早急に話していきたい。



○3月議会での一般質問(2023年 春号 No.20)

【質問】 現在、猫の不妊手術・去勢手術に対して高知県からの助成金があり、移動手術車をお持ちの獣医さんがいる今が取り組みを進めるチャンスと考えている。市内各地区に取り組みを広げる必要があり、各地区同じ条件にする必要がある。移動手術車の出張費用の助成が出来ないか?

【答弁】 ボランティア団体等の意見を聴き、整理していく。

《その他》

○トイレレーラーの購入について・・・防災意識の向上と、市区町村の連携強化

○市道城北霊園線の整備について・・・公共施設に向かう市民の利便性向上

○トンボ公園・・・ガイドの配置や適正な料金設定の検討などについて

○市民病院・・・建物の補修等、外観の改善、長寿命化の計画について

入院患者の積極的な受け入れについて(幡多けんみん病院への負担軽減のため)

○下田地区防災対策・・・地域の代表者との話し合いや、避難所のスペース等について

○記念植樹...中村小卒業記念植樹46人

○肥料・飼料高騰対策支援・・・補助事業の対象者が「農業収入50万円以上で肥料費5万円以上」というのは不平等ではないか

などなど・・・

急な講演の依頼でしたが、「ひろせ正明通信」のスライドを見ながら、四万十市議会での質問や答弁など、たくさんの報告をしていただきました。